

代表質問



新政会代表
菊地清次 議員
が問う！

常磐物であるイシガレイや
マコガレイなどのカレイ類を
育成し放流を!!

相馬市の基幹産業である
漁業振興について

地球温暖化による海水温度の上昇により、今まで余り揚がっていなかったトラフグがまとまって獲れる様になった一方で、沖合ではズワイガニや常磐物と呼ばれるイシガレイなどが獲れなくなっている。ヒラメ漁は順調に水揚げされているが、相馬市の基幹産業である漁業振興について質問する。

Q. 漁業を取り巻く最近の自然環境の変化をどの様に捉えているのか市長の考えを伺う。
A. 市は、海洋環境の変化により、これまで福島



にじ
愛澤俊行 議員
が問う！

市民の利便性向上・時間短縮や
手続きの負担軽減を!!

書かないワンストップ窓口
の導入について

複数の事務手続きを1カ所で行えることで、市民の事務手続きの負担が大幅に減り、書き間違いや待ち時間が無くなることで利便性の向上につながる。また、本市はマイナンバーカードの保有率が高いため、書かないワンストップ窓口を導入し、多くの方が利用する

Q. マイナンバーカードを活用した書かないワンストップ窓口の導入についての考えを問う。
A. 書かないワンストップ窓口は、マイナンバー



そうま市民の会
根岸利宗 議員
が問う！

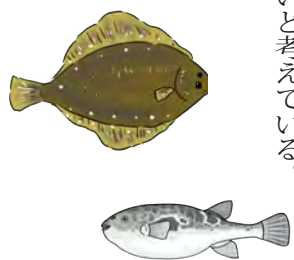
相馬市独自の子育て支援策を!!

相馬市子育て食育支援基金
について

学校給食費無償化の議論は、保護者の教育費負担軽減の一環として、国会でも大きく取り上げられている。国費投入により全国一律の学校給食費無償化が実現した際は、現在支出している相馬市子育て食育支援基金からの支出はなくなり、そのお金を別な用途に活用できると考え、質問する。

Q. 現状認識について問う。
A. 子育て食育支援基金の令和3年度から令和5年度までの直近3年間の各年度の積立額は、令和3年度2億9,015万8,227円、令和4年

その他の質問



県沿岸の漁場で獲れていたコウナゴやズワイガニ、カレイ類等の魚種が獲れなくなり減少していることについて懸念をしている。
一方で、トラフグ、タチウオ等の新たに獲れる魚種が発生している現実もある。
海洋環境の変化によって獲れる魚種が変化することについては、市が政策的に対応することは困難であると考えている。
しかしながら、市は、漁業の復興及び振興を図るため、出来る限りの支援を行ってきた。
市は、令和6年度については、相馬双葉漁業協同組合が取り組むアオサノリの異物除去や選別作業等の施設整備や、漁港内へのごみの流入を防止するオイルフェンス整備に対する補助を行っている。
また、本定例会においても、令和7年度一般会計予算の中で、相馬双葉漁業協同組合が実施予定の原釜荷さばき施設への防鳥ネット整備や、磯部水産加工施設への冷温循環装置付き活魚イケス整備に対し、補助する予算を計上している。
市としては、今後も漁業者のご努力に対し、出来る限りの支援を行っていきたいと考えている。

○防災備蓄倉庫の備蓄品管理状況について
○市内小中学校の教育環境及び通学環境の整備状況について



動画は
↓
↑
こちらから

その他の質問

○消防団員の確保について



動画は
↓
↑
こちらから

その他の質問

○下水道事業について



動画は
↓
↑
こちらから

度2億4,850万6,259円、令和5年度3億3,115万6,005円となっている。
次に、基金の直近3年間の各年度の支出実績額は、令和3年度1億5,504万1,716円、令和4年度1億5,374万9,445円、令和5年度1億6,462万1,475円となっている。
また、令和7年2月末における基金の残高は、4億9,005万8,747円である。
これらを踏まえ、市教育委員会としては、子育て食育支援基金を適切に活用できていると捉えている。
Q. 今後の在り方について問う。
A. 子育て食育支援基金は、光陽地区造成事業に伴う石炭灰埋立処分分の収益が財源となっており、市教育委員会では、その基金を活用して学校給食無料化事業に取り組んでいる。
物価高騰により食材が値上がり傾向にあるものの、保護者の負担軽減と本市の食育の目標である「子どもたちの健やかな心と体を育む」ために、市の担当部局と連携しながら、適切に基金を活用していく。
なお、国による学校給食費無償化を行うことになった際には、地方交付税の措置になると思う。これまでの石炭灰埋立処分手数料を市独自の事業の財源として充てることができると思うが、使い道についてはその時の市長の判断となるため、現段階でお答えできない。